

乱れ飛ぶ海外情報

先日、バラエティ番組で「スウェーデンでは、歯みがき後にすすがないので、むし歯が少ない」という内容が放映された。歯磨剤のフッ化物をできるだけ有効に活用するための方法のようだが、「あれは本当なのか？」という問い合わせが編集部にも寄せられた。

いわゆる「イエテボリ法」と呼ばれる方法で、有効性を支持する日本の歯科医師も少なくない。しかし複数のスウェーデン在住者に確認したところ、「そのような話は聞いたことがない」とのこと、国民の生活に浸透しているとは言いえないようだ。

このような例は、歯科界には意外に多い。しばしば「歯科先進国」と称される国が例示され、「かの国では

『く』だが、日本は遅れていて」という筋書きになる。予防目的の歯科受診頻度、フロスの使用状況などが代表格だが、実際に、直近の国際統計などで確認すると、必ずしも「日本が遅れている」というほどの差。これらは、真偽を判別するのが意外に難しい側面がある。

われわれ歯科メディアも、かなりの量の海外情報を発信。後で問題点が指摘される例もある。ある時「中国では、口臭の強い人は宇宙飛行士になれない」という記事を掲載したが、宇宙開発の関係者から「宇宙船内は、かなりの悪臭で口臭程度は問題にならない」と言われた。海外情報の評価には、注意したいものだ。